



2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月14日

上場会社名 株式会社 ヤマノホールディングス

上場取引所 東

コード番号 7571 URL <https://www.yamano-hd.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長兼最高経営責任者 (C (氏名) 山野 義友
EO)

問合せ先責任者 (役職名) 取締役専務執行役員管理本部長 (氏名) 岡田 充弘

TEL 03-3376-7878

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	6,811	0.2	8		4	96.7	9	
2023年3月期第2四半期	6,795	5.6	144	165.2	140	214.0	54	

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 15百万円 (%) 2023年3月期第2四半期 71百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	0.27	
2023年3月期第2四半期	1.56	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	9,564	1,262	13.2
2023年3月期	9,357	1,331	14.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 1,262百万円 2023年3月期 1,331百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		1.50	1.50
2024年3月期(予想)				1.50	1.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,100	1.4	240	19.4	230	19.8	140	19.4	4.01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	35,830,058 株	2023年3月期	35,830,058 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	956,869 株	2023年3月期	956,869 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	34,873,189 株	2023年3月期2Q	34,873,189 株

当社は「株式給付信託(BBT)」を導入しており、株主資本に自己株式として計上されている「株式給付信託(BBT)」に残存する自社の株式は、1株当たり当期純利益の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。また1株当たり純資産額の算定上、期末発行株式総数から控除する自己株式に含めております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

・決算補足説明資料を速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュフロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、行動制限の緩和や各種政策の効果等もあり、社会経済活動が正常化に向け緩やかに動き始めております。一方で、世界的な金融引き締め等が続く中、原材料価格の高騰や物価上昇並びに人件費の高騰等様々な影響が懸念され、景気の先行きは依然として不透明な状況が続きました。

このような状況下、当社グループにおきましては、前期不採算店舗を閉鎖を実施したことによる営業店舗数減の影響はありましたが、2022年5月にグループ入りした学習塾を運営する東京ガイダンス株式会社及び同年6月にリユース事業を展開する株式会社OLD FLIPが当上半期の売上高に寄与しております。

また、コロナ禍において抑制してきた採用や人材教育・研修等の取り組みをさらに強化し、組織基盤の強化に取り組んでおります。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は、68億11百万円（前年同期比0.2%増）となりました。

利益面では、採用強化による採用費及び人件費等のコストが増加したことに加え、前期の子会社株式取得によるのれん償却費の増加等があり、営業損失は8百万円（前年同期は営業利益1億44百万円）、経常利益は4百万円（前年同期比96.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は9百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益54百万円）となりました。

なお、営業利益につきまして、前期は販管費の一部を特別損失「新型コロナウイルス感染症による損失」へ振替計上しており、特別損失振替前の営業損失△9百万円からは1百万円の改善となっております。また上半期損益におきまして損失を計上しておりますが、当期は人件費等のコスト増等を見込んでおり、概ね当初計画に沿った結果となっております。

セグメント別の業績は、次のとおりです。

・美容事業

美容事業においては、前期不採算店舗の閉鎖を実施し前年同期比で2店舗減の影響もありましたが、指名制度の導入やメニュー提案等による客単価の上昇もあり、売上高は9億71百万円（前年同期比0.2%増）となりました。損益面では新卒採用を強化したことによる人件費等の増加もあり、セグメント利益は1百万円（前年同期比88.6%減）となりました。

美容事業では一人当たり生産性の向上や来店客数回復への取り組みは引き続き進めるとともに、業態・ブランドごとの広告宣伝を見直し、効果的な顧客獲得に努めてまいります。また店舗業態転換の実行や新業態展開の検討を継続して推進し、収益力強化を図ってまいります。

・和装宝飾事業

和装宝飾事業において、店頭客数及び合同大型展示販売会は前年を上回る形で推移していますが、継続的な物価上昇による個人消費停滞の懸念から、客単価減少の影響がでており、また前期と比べ受注商品の引渡が進まなかったこと等もあり、売上高は47億43百万円（前年同期比2.9%減）となりました。損益面では、売上減少に加え、採用強化による採用費及び人件費が増加したこともあり、セグメント利益は47百万円（前年同期比66.0%減）となりました。

和装宝飾事業では、新しいツールを活用した社員教育を試験的に導入し、知識向上及びお客様へのサービス向上に向け取り組んでおります。また時代に沿った店頭商材の導入や「前染結び着方教室」を通じきものファン化を推進するとともに、着る機会の提供として「きもの会」を各店舗、各エリアで開催しており、開催数、参加者はともに前年を大きく上回る形で推移しております。引き続きお客様へのソフトと価値の提供を強化し、顧客満足度の向上を図ってまいります。

・DSM事業

DSM事業においては、販売員や顧客の高齢化もあり依然厳しい状況が続いておりますが、経営基盤の整備等を図ったこともあり減収額は縮小傾向で推移しております。前期に拠点の統廃合を実施した影響や販売稼働数の低下等もあり、売上高は4億39百万円（前年同期比7.2%減）となりました。損益面においてもコスト管理強化の推進は継続しておりますが、売上高減少による売上総利益の減少は補えず、セグメント損失は21百万円（前年同期はセグメント損失1百万円）となりました。

DSM事業では、引き続き顧客数を増やすための紹介キャンペーンの実施や休眠顧客の深耕開拓に努めるとともに、提案商品や動員企画の見直しを図り、収益改善に努めてまいります。

・教育事業

教育事業においては、株式会社マンツーマンアカデミーの安定した塾運営に加え、2022年5月付で連結子会社に加わった東京ガイダンス株式会社が当上半期を通して寄与したこともあり、売上高は4億93百万円（前年同期比21.2%増）となりました。損益面では前年同期に東京ガイダンス株式会社のグループ化に伴う一時的な管理統合費用の計上が当期はなくなったことに加え、両社ともに順調に推移していることもあり、セグメント利益は23百万円（前年同期はセグメント損失7百万円）と黒字へ転換いたしました。

教育事業では、「スクールIE」のブランド特色を活かし、他社差別化を図るとともに、キャリアアップ研修の充実やさまざまな育成プログラムなど人材育成にも注力し、さらなる顧客満足度向上に繋げ、安定的な収益確保に努めてまいります。

・その他の事業

その他の事業の収益は、株式会社ヤマノセイビングの前払い式特定取引業による手数料収益及び一般社団法人日本技術技能教育協会の着物着付け教室の運営収益に加え、2022年6月付で連結子会社化した、リユース事業を営む株式会社OLD FLIPの業績が当上半期で寄与したこともあり、売上高は1億64百万円（前年同期比161.4%増）となり、セグメント損失は39百万円（前年同期はセグメント損失11百万円）となりました。

株式会社OLD FLIPにつきましては、拡大が期待されるリユース市場において様々な可能性に取り組んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて2億7百万円増加し95億64百万円となりました。これは主に現金及び預金が2億5百万円増加、商品が53百万円増加し、売掛金が28百万円減少、のれんが6百万円減少したことによるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて2億75百万円増加し83億1百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金が1億10百万円増加、電子記録債務が2億41百万円増加、短期借入金が3億70百万円増加し、未払法人税等が39百万円減少、前受金が1億5百万円減少、賞与引当金が41百万円減少、長期借入金が2億41百万円減少したことによるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ68百万円減少し12億62百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失計上による利益剰余金9百万円の減少、配当52百万円によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結結果計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前年同四半期連結会計期間末に比べ25百万円増加し30億36百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、1億99百万円（前年同四半期は1億20百万円の支出）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益10百万円、仕入債務が3億52百万円増加、棚卸資産が53百万円増加、前受金が1億5百万円減少したことによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は、48百万円（前年同四半期は2億11百万円の支出）となりました。

これは主に、敷金及び保証金の差入による支出25百万円、連結子会社の取得による支出15百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果得られた資金は、54百万円（前年同四半期は54百万円の収入）となりました。

これは主に、短期借入れによる収入3億70百万円、長期借入れによる収入3億円、長期借入金の返済による支出5億53百万円、配当金の支払いによる支出52百万円によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、2023年5月15日公表の業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,319,477	3,525,249
売掛金	2,561,415	2,533,275
商品	1,360,317	1,413,379
貯蔵品	115	96
その他	247,684	238,903
貸倒引当金	△11,737	△11,830
流動資産合計	7,477,272	7,699,072
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	733,006	727,859
減価償却累計額	△475,934	△477,504
建物及び構築物(純額)	257,071	250,354
工具、器具及び備品	204,934	207,624
減価償却累計額	△181,249	△183,376
工具、器具及び備品(純額)	23,684	24,247
土地	40,211	36,511
リース資産	79,777	79,777
減価償却累計額	△61,677	△67,321
リース資産(純額)	18,099	12,456
有形固定資産合計	339,068	323,570
無形固定資産		
のれん	325,161	318,939
その他	19,289	20,918
無形固定資産合計	344,450	339,857
投資その他の資産		
投資有価証券	151,713	142,130
長期貸付金	37,790	37,738
繰延税金資産	135,210	141,388
敷金及び保証金	832,797	825,588
その他	62,341	77,732
貸倒引当金	△23,316	△22,615
投資その他の資産合計	1,196,535	1,201,963
固定資産合計	1,880,054	1,865,391
資産合計	9,357,326	9,564,464

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	899,234	1,009,763
電子記録債務	575,810	817,492
短期借入金	1,630,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	504,704	492,416
未払金	512,046	568,824
前受金	1,262,236	1,156,885
未払法人税等	61,823	22,749
賞与引当金	115,163	73,738
役員賞与引当金	7,550	-
株主優待引当金	5,829	5,829
資産除去債務	6,030	7,734
その他	321,010	293,859
流動負債合計	5,901,440	6,449,292
固定負債		
長期借入金	1,707,164	1,465,738
長期未払金	44,467	25,333
退職給付に係る負債	23,398	22,769
役員株式給付引当金	31,894	31,894
資産除去債務	295,299	289,212
その他	22,320	17,539
固定負債合計	2,124,543	1,852,487
負債合計	8,025,984	8,301,779
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	178,374	178,374
利益剰余金	1,263,088	1,200,697
自己株式	△91,702	△91,702
株主資本合計	1,359,760	1,297,369
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△28,418	△34,685
その他の包括利益累計額合計	△28,418	△34,685
非支配株主持分	-	-
純資産合計	1,331,342	1,262,684
負債純資産合計	9,357,326	9,564,464

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	6,795,963	6,811,729
売上原価	3,327,894	3,363,144
売上総利益	3,468,068	3,448,584
販売費及び一般管理費	3,323,325	3,456,826
営業利益又は営業損失(△)	144,743	△8,241
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,561	2,142
受取地代家賃	816	136
助成金収入	2,392	5,905
受取和解金	-	15,396
その他	5,503	4,671
営業外収益合計	11,273	28,252
営業外費用		
支払利息	11,050	10,444
障害者雇用納付金	2,425	2,650
その他	2,119	2,274
営業外費用合計	15,595	15,368
経常利益	140,422	4,642
特別利益		
固定資産売却益	4,988	7,190
雇用調整助成金	101,558	-
その他	6,100	-
特別利益合計	112,647	7,190
特別損失		
固定資産除却損	264	0
減損損失	2,400	159
店舗閉鎖損失	160	1,257
新型コロナウイルス感染症による損失	154,703	-
その他	14,002	-
特別損失合計	171,532	1,416
税金等調整前四半期純利益	81,537	10,416
法人税等	27,267	19,908
四半期純利益又は四半期純損失(△)	54,269	△9,491
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	54,269	△9,491

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	54,269	△9,491
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,279	△6,266
その他の包括利益合計	17,279	△6,266
四半期包括利益	71,549	△15,758
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	71,549	△15,758
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	81,537	10,416
減価償却費	29,353	27,648
のれん償却額	18,170	28,947
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△696	△608
賞与引当金の増減額 (△は減少)	626	△41,425
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	-	△7,550
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	1,888	△629
受取利息及び受取配当金	△2,561	△2,142
支払利息	11,050	10,444
雇用調整助成金	△101,558	-
有形固定資産除却損	264	0
有形固定資産売却損益 (△は益)	△4,988	△7,190
減損損失	2,400	159
売上債権の増減額 (△は増加)	△19,233	28,140
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△18,858	△53,043
仕入債務の増減額 (△は減少)	38,577	352,210
前受金の増減額 (△は減少)	△153,842	△105,351
その他	△70,614	15,900
小計	△188,482	255,927
利息及び配当金の受取額	1,941	1,948
利息の支払額	△10,991	△10,029
雇用調整助成金の受取額	106,549	-
法人税等の支払額	△29,186	△48,104
営業活動によるキャッシュ・フロー	△120,170	199,742
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△23,107	△21,492
有形固定資産の売却による収入	4,988	14,330
無形固定資産の取得による支出	△4,432	△5,300
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△245,171	△15,000
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	41,633	-
貸付けによる支出	△200	△524
貸付金の回収による収入	629	739
敷金及び保証金の差入による支出	△17,023	△25,671
差入保証金の回収による収入	42,001	34,632
その他	△11,088	△29,781
投資活動によるキャッシュ・フロー	△211,770	△48,067

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△250,000	370,000
長期借入れによる収入	540,000	300,000
長期借入金の返済による支出	△189,225	△553,713
配当金の支払額	△34,764	△52,484
その他	△11,923	△9,704
財務活動によるキャッシュ・フロー	54,086	54,097
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△277,854	205,771
現金及び現金同等物の期首残高	3,288,706	2,830,727
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,010,851	3,036,499

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント				
	美容	和装宝飾	D S M	教育	計
売上高					
顧客との契約から生じる収益	968,977	4,807,786	473,533	407,032	6,657,330
その他の収益(注4)	—	75,661	—	—	75,661
外部顧客への売上高	968,977	4,883,448	473,533	407,032	6,732,992
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	968,977	4,883,448	473,533	407,032	6,732,992
セグメント利益又は損失(△)	16,475	138,903	△1,617	△7,617	146,143

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	62,970	6,720,301	—	6,720,301
その他の収益(注4)	—	75,661	—	75,661
外部顧客への売上高	62,970	6,795,963	—	6,795,963
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,001	3,001	△3,001	—
計	65,972	6,798,965	△3,001	6,795,963
セグメント利益又は損失(△)	△11,487	134,655	10,087	144,743

(注) 1 その他は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであるリユース事業及びその他の事業等を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額10,087千円には、のれんの償却額△17,383千円、各報告セグメントに配分していない全社費用27,470千円及び棚卸資産の調整額0千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4 その他の収益は、顧客と割賦契約を締結する場合に生じる割賦手数料収益であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位：千円)

	美容	和装宝飾	D S M	教育	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	—	—	2,400	—	—	2,400

(のれんの金額の重要な変動)

第1四半期連結累計期間において、東京ガイダンス株式会社の株式を取得し当社の子会社としたことに伴い、「教育事業」セグメントにおいて、のれんが312,185千円増加しております。また、株式会社OLD FLIPの株式を取得し当社の子会社としたことに伴い、「その他」セグメントにおいて、のれんが51,041千円増加しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	美容	和装宝飾	D S M	教育	計
売上高					
顧客との契約から生じる収益	971,022	4,663,834	439,263	493,412	6,567,533
その他の収益(注4)	—	79,616	—	—	79,616
外部顧客への売上高	971,022	4,743,451	439,263	493,412	6,647,149
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	—	—	—	11
計	971,033	4,743,451	439,263	493,412	6,647,160
セグメント利益又は損失(△)	1,875	47,252	△21,989	23,787	50,926

	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高				
顧客との契約から生じる収益	164,579	6,732,113	—	6,732,113
その他の収益(注4)	—	79,616	—	79,616
外部顧客への売上高	164,579	6,811,729	—	6,811,729
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,715	2,726	△2,726	—
計	167,294	6,814,455	△2,726	6,811,729
セグメント利益又は損失(△)	△39,667	11,259	△19,500	△8,241

- (注) 1 その他は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであるリユース事業及びその他の事業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△19,500千円には、のれんの償却額△27,403千円、各報告セグメントに配分していない全社費用7,902千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
- 4 その他の収益は、顧客と割賦契約を締結する場合に生じる割賦手数料収益であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

(単位:千円)

	美容	和装宝飾	D S M	教育	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	159	—	—	—	—	159

(重要な後発事象)

(多額な資金の借入)

当社は、2023年10月18日開催の取締役会において、以下のとおり資金の借入を行うことを決議し、2023年10月31日付で借入を実行いたしました。

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 用途 | 運転資金 |
| 2. 借入先 | 株式会社商工組合中央金庫 |
| 3. 借入総額 | 100,000千円 |
| 4. 借入利率 | 基準金利＋スプレッド |
| 5. 借入実行日 | 2023年10月31日 |
| 6. 借入期間 | 7年 |
| 7. 担保など | 無担保 |